

【復興交付金事業計画の個別事業の実績に関する評価様式】

事業番号 C-6-7

事業名 漁港施設機能強化事業（⑦荒砥漁港）

事業費 総額 16,069 千円（国費：12,051 千円）
（内訳：工事費 16,069 千円）

事業期間 平成 24 年度～令和 2 年度

事業目的

被災した漁港において、災害復旧事業による漁港施設（防波堤、物揚場、船揚場、道路）の復旧と連携して、地盤沈下した漁業作業用用地の嵩上げ、舗装等を行い、漁港機能の速やかな回復を図る。

【整備概要】

○漁業用施設用地の嵩上げ 1m 程度 面積 2,300 m²

事業地区 荒砥漁港（別紙地図添付）

事業結果

地区名：荒砥地区（漁業用施設用地嵩上げ A=3,600 m²，アスファルト舗装 A=1,750 m²）

<平成 24 年度～令和 2 年度>

・工事費 16,069 千円

○漁港の概要（港勢調査）

年度	経営 体数	漁船		水産物水揚げ(t)		主な水産物
		登録数	利用数	漁獲	養殖	
H22	89	125	125	3.8	640.3	サケ、ホタテ、ホヤ、ワカメ
H25	57	21	21	0.0	74.5	ワカメ
R4	32	82	82	4.7	405.2	ホタテ、ワカメ

事業の実績に関する評価

① 事業結果の活用状況に関する調査・分析・評価

漁業施設用地について物揚場等周辺施設と同等に約 0.8m 程度嵩上げ整備したことから、漁具置き場や漁網の天日干し、養殖げたの清掃作業など、ホタテ・ワカメ養殖等の漁業活動で漁協組合に加入する約 80 名の漁業者に有効に活用されている。以上のことにより、事業が適正な執行がなされていると判断される。

② コストに関する調査・分析・評価

事業費の設計・積算は宮城県土木工事標準積算基準等により実施し、南三陸町財務規則等に基づき入札を行い業者を選定している。

漁港施設災害復旧工事や近隣地区と合冊発注することで経費削減に努めた。

また、同様の事業を行った気仙沼市の漁港施設機能強化事業の事業費(138,868

千円/4 件)と比較すると、気仙沼市 6,576 円/m²に対し南三陸町 4,464 円/m²となっており、発注条件の違いもあり単純に比較はできないが、嵩上高の差から、妥当なものとする。

	南三陸町	気仙沼市
事業箇所	荒砥地区(第 1 種漁港)	市内漁港 4 地区(第 1 種漁港)
事業内容	漁港施設用地嵩上げ (H=0.8m,A=3,600 m ²)	漁港施設用地嵩上げ (H=1m,A=21,117 m ²)
事業費	16,069 千円	138,868 千円

③ 事業手法に関する調査・分析・評価

関連する災害復旧事業及び漁業従事者との調整により工事発注時期が遅れたが、今回の災害規模を考えるとやむを得ないものとする。また、荒砥漁港海岸防潮堤災害復旧工事と合冊発注しており、防潮堤(重力式擁壁)を先行して整備しなければならなかったことにより事業期間が伸びたが、地域との合意形成を図り、漁業活動に支障を来すことなく復興期間内に事業を完了させることができたことは評価される。

<想定した事業期間>

工事発注・完了 平成 24 年 5 月～平成 28 年 3 月

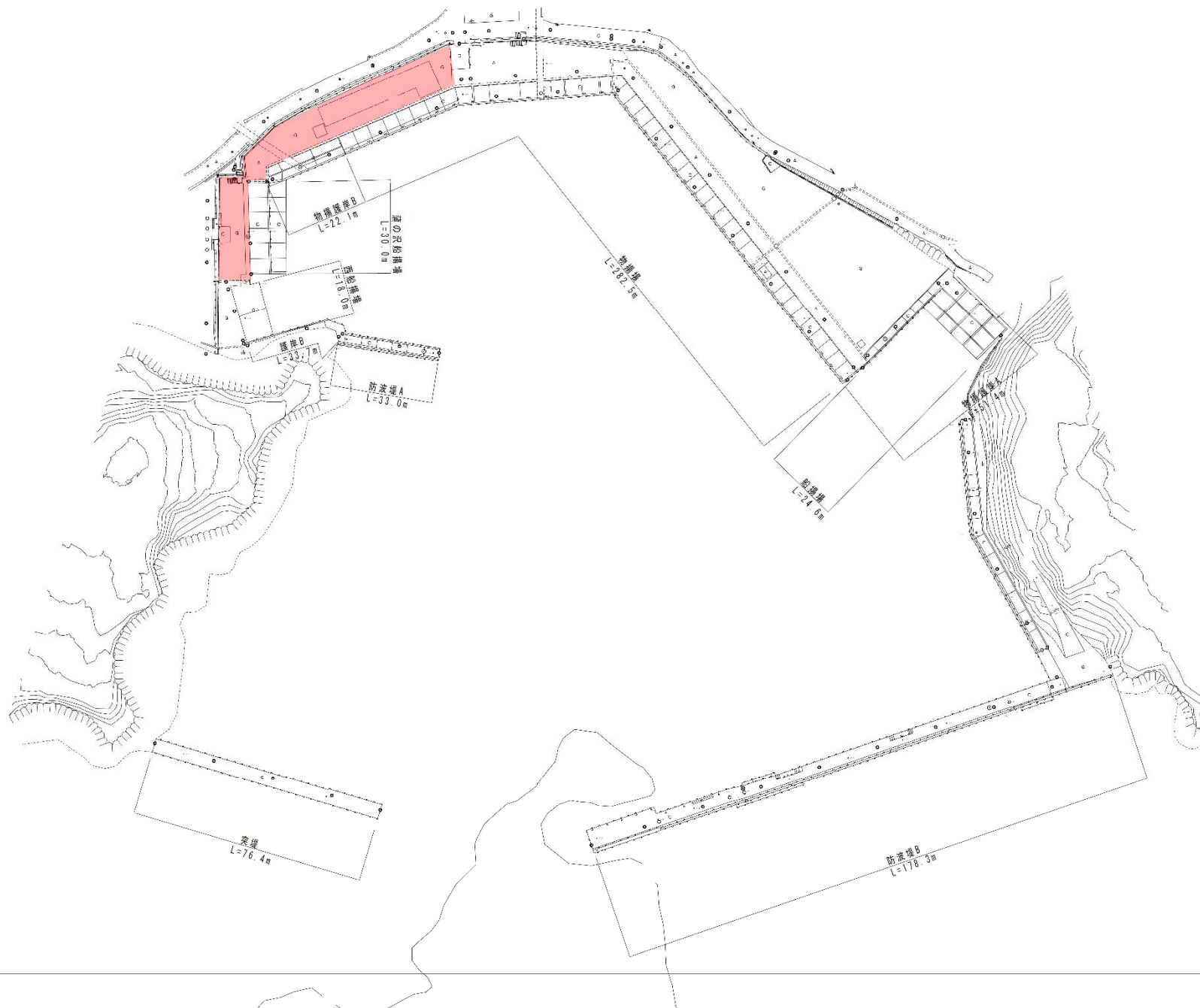
<実際に事業に要した事業期間>

工事発注・完了 平成 24 年 11 月～令和 3 年 3 月

事業担当部局

建設課漁港係 電話番号： 0226-46-1377

荒砥漁港 平面図



【復興交付金事業計画の個別事業の実績に関する評価様式】

事業番号 C-6-8

事業名 漁港施設機能強化事業（⑧平磯漁港）

事業費 総額 12,873 千円（国費：9,654 千円）

内訳：工事費 12,873 千円

事業期間 平成 24 年度～平成 25 年度

事業目的

被災した漁港において、災害復旧事業による漁港施設（防波堤、防潮堤、護岸、胸壁、物揚場、棧橋、船揚場、道路、消波堤）の復旧と連携して、地盤沈下した漁業用施設用地（共同利用施設）の嵩上げ等を行い、漁港機能の速やかな回復を図る。

【整備概要】

○漁業用施設用地の嵩上げ 1m 程度 $A=1,578 \text{ m}^2$

事業地区 平磯漁港（別紙図面参照）

事業結果

災害復旧事業と連携し、下記のとおり機能強化を図った。

- ・漁業用施設用地嵩上げ $A=1,000 \text{ m}^2$
- ・アスファルト舗装工 $A=1,000 \text{ m}^2$

<平成 24 年度～平成 25 年度>

- ・工事費 12,873 千円

○漁港の概要（港勢調査）

年度	経営 体数	漁船		水産物水揚げ(t)		主な水産物
		登録数	利用数	漁獲	養殖	
H22	17	64	64	1.2	184.3	カキ、ワカメ
H25	24	313	313	0.2	101.2	カキ、ワカメ
R4	12	48	48	1.9	219.4	カキ、ワカメ

事業の実績に関する評価

① 事業結果の活用状況に関する調査・分析・評価

漁業用施設用地について物揚場等周辺施設と同等になるよう約 2m 程度嵩上げ整備したことから、漁具置場や漁網の天日干し、養殖げたの清掃作業など、漁協組合に加入する約 60 名の漁業者に有効に活用されている。以上のことより、本事業においては適正な執行がなされていると判断される。

② コストに関する調査・分析・評価

事業費の設計、積算は宮城県土木工事標準積算基準等により実施し、南三陸町財務規則等に基づき入札を行い、業者を選定している。

道路災害復旧工事と合冊発注することで、経費削減に努めた。

また、同様の事業を行った気仙沼市の漁港施設機能強化事業の事業費（138,868千円）と比較すると妥当な事業費（12,873千円）であった。これは、近隣漁港の同種工事と同時に発注できなかったことが考えられる。

	南三陸町	気仙沼市
事業箇所	平磯地区（第1種漁港）	市内漁港4地区(第1種漁港)
事業内容	漁業用施設用地嵩上げ A=1,000 m ²	漁港施設用地嵩上げ (H=1m,A=21,117 m ²)
事業費	12,873千円	138,868千円

③ 事業手法に関する調査・分析・評価

関連する災害復旧事業との調整により工事発注時期が遅れたことにより、工事の完了も1年程遅れが生じたが、漁業関係者の工事への理解が得られ、漁業活動との調整が滞りなくなされたことにより、漁業活動に支障を来すこと無く工事を完了させることができたことから、事業手法は適切と考える。

<想定した事業期間>

工事発注・完了 平成24年5月～平成25年1月

<実際に事業に要した事業期間>

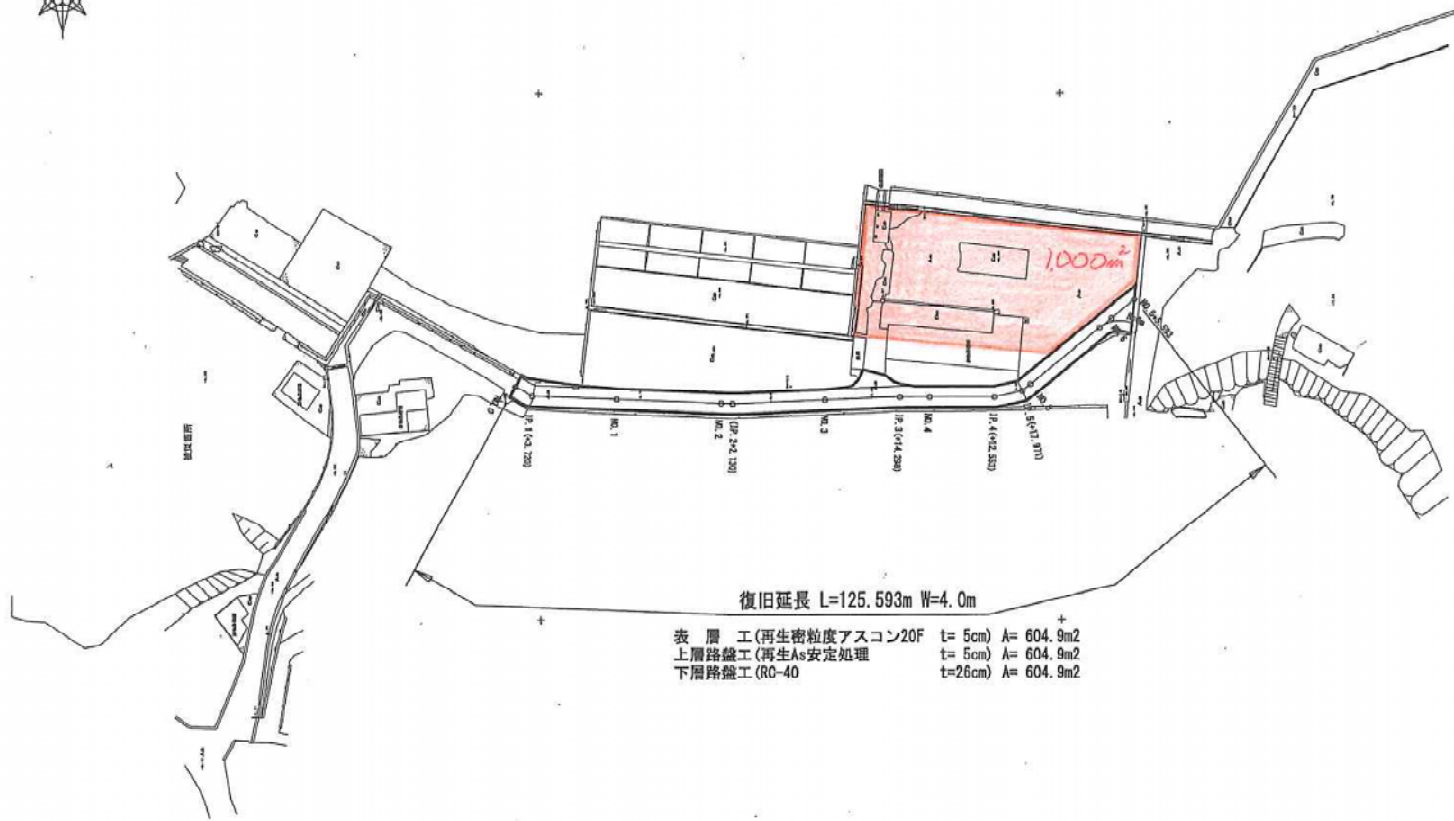
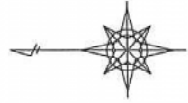
工事発注・完了 平成25年1月～平成26年2月

事業担当部局

建設課漁港係 電話番号：0226-46-1377

復旧計画平面図

S=1:500



表層工(再生密粒度アスコン20F) t=5cm A=604.9m²
 上層路盤工(再生As安定処理) t=5cm A=604.9m²
 下層路盤工(RC-40) t=26cm A=604.9m²

<small>道路法第100条第4号 第11号 河川法第50条第2項 第55条第4号 国土交通省令第11号</small>	
用途名	平橋築造
施工地名	宮城県南三陸町平橋築造
工事番号	23年災防005号
工事名	農業用灌漑人員施設管理復旧工事
図面名	復旧計画平面図
基準面	B.L. (T.P. 8.884m)
縮尺	S=1:500
設計者	
宮城県南三陸町	

【復興交付金事業計画の個別事業の実績に関する評価様式】

事業番号 C-6-9

事業名 漁港施設機能強化事業（⑨津の宮漁港）

事業費 総額 16,560 千円（国費：12,419 千円）

内訳：工事費 16,560 千円

事業期間 平成 24 年度～平成 28 年度

事業目的

被災した漁港において、災害復旧事業による漁港施設（防波堤、護岸、突堤、物揚場、船揚場、道路）の復旧と連携して、地盤沈下した漁業作業用用地の嵩上げ等を行い、漁港機能の速やかな回復を図る。

【整備概要】

○漁業用施設用地の嵩上げ 1m 程度 A= 2,718 m²

事業地区 津の宮漁港（別紙図面参照）

事業結果

災害復旧事業と連携し、下記のとおり機能強化を図った。

- ・ 漁業用施設用地嵩上げ A=2,800 m²
- ・ アスファルト舗装 A=2,040 m²

<平成 24 年度～平成 25 年度>

- ・ 工事費 16,560 千円

○漁港の概要（港勢調査）

年度	経営 体数	漁船		水産物水揚げ(t)		主な水産物
		登録数	利用数	漁獲	養殖	
H22	81	59	59	1.4	893.5	サケ、カキ
H25	23	8	8	0.2	172.5	ワカメ
R4	14	69	69	0.8	463.5	カキ、ホタテ、ワカメ

事業の実績に関する評価

① 事業結果の活用状況に関する調査・分析・評価

漁業施設用地について物揚場等周辺施設と同等に約 0.8m 程度嵩上げ整備したことから、漁具置き場や漁網の天日干し、養殖げたの清掃作業など、カキ・ホタテ・ワカメ養殖等の漁業活動で漁協組合に加入する約 30 名の漁業者に有効に活用されている。以上のことにより、事業が適正な執行がなされていると判断される。

② コストに関する調査・分析・評価

事業費の設計・積算は宮城県土木工事標準積算基準等により実施し、南三陸町財務規則等に基づき入札を行い業者を選定している。

漁港施設災害復旧工事や近隣地区と合冊発注することで経費削減に努めた。

また、同様の事業を行った気仙沼市の漁港施設機能強化事業の事業費(138,868千円/4件)と比較すると、気仙沼市 6,576 円/m²に対し南三陸町 5,914 円/m²であったことから、経済的な事業費(16,560千円)であると判断される。

	南三陸町	気仙沼市
事業箇所	津の宮地区(第1種漁港)	市内漁港4地区(第1種漁港)
事業内容	漁港施設用地嵩上げ (H=0.8m,A=2,800 m ²)	漁港施設用地嵩上げ (H=1m,A=21,117 m ²)
事業費	16,560千円	138,868千円

③ 事業手法に関する調査・分析・評価

関連する災害復旧事業との調整により工事発注時期が遅れたが、漁業関係者の工事への理解が得られ、漁業活動との調整が滞りなくなされたことにより、工事を予定より早期に完了させることができたことから、事業手法は適切と判断される。

<想定した事業期間>

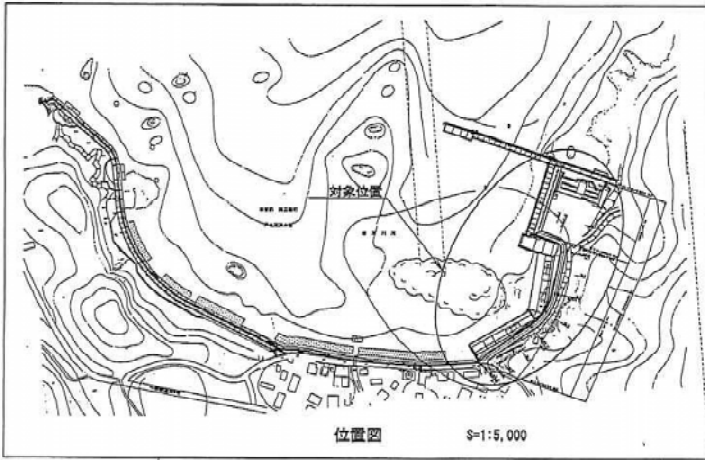
工事発注・完了 平成24年5月～平成27年3月

<実際に事業に要した事業期間>

工事発注・完了 平成24年11月～平成26年2月

事業担当部局

建設課漁港係 電話番号：0226-46-1377



本吉郡 南三陸町

戸倉字津の宮

津川湾

用土着上げ
A=2800m²
平均厚さ：H=50cm

漁港名	津ノ宮漁港
場所名	宮城県本吉郡南三陸町津ノ宮 地内
工事番号	23年災 第6095・6091号
工事名	津の宮・水戸辺漁港道路用地復旧工事
図面名	津の宮道路 平面図
基準面	D.L. (T.P. -0.894m)
縮尺	図示
図面番号	1/14
南三陸町	

【復興交付金事業計画の個別事業の実績に関する評価様式】

事業番号 C-6-10																																						
事業名 漁港施設機能強化事業 (⑩藤浜漁港)																																						
事業費 総額 4,395 千円 (国費 : 3,296 千円) 内訳 : 工事費 4,395 千円																																						
事業期間 平成 24 年度～令和 2 年度																																						
<p>事業目的</p> <p>被災した漁港において、災害復旧事業による漁港施設（防波堤、護岸、突堤、物揚場、船揚場、道路）の復旧と連携して、地盤沈下した漁業用施設用地の嵩上げ、舗装等を行い、漁港機能の速やかな回復を図る。</p> <p>【整備概要】</p> <p>○漁業用施設用地の嵩上げ 1m 程度 A= 190 m²</p> <p>事業地区 藤浜漁港（別紙図面参照）</p>																																						
<p>事業結果</p> <p>災害復旧事業と連携し、下記のとおり機能強化を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁業用施設用地嵩上げ A=1,164 m² ・アスファルト舗装 A=154 m² <p><平成 24 年度～令和 2 年度></p> <ul style="list-style-type: none"> ・工事費 4,395 千円 <p>○漁港の概要（港勢調査）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">年度</th> <th rowspan="2">経営 体数</th> <th colspan="2">漁船</th> <th colspan="2">水産物水揚げ(t)</th> <th rowspan="2">主な水産物</th> </tr> <tr> <th>登録数</th> <th>利用数</th> <th>漁獲</th> <th>養殖</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H22</td> <td>31</td> <td>30</td> <td>30</td> <td>0.9</td> <td>54.2</td> <td>カキ、ホヤ、ワカメ</td> </tr> <tr> <td>H25</td> <td>18</td> <td>140</td> <td>140</td> <td>0.1</td> <td>8.0</td> <td>カキ、ワカメ</td> </tr> <tr> <td>R4</td> <td>10</td> <td>24</td> <td>24</td> <td>1.6</td> <td>159.3</td> <td>カキ、ホヤ、ワカメ</td> </tr> </tbody> </table>							年度	経営 体数	漁船		水産物水揚げ(t)		主な水産物	登録数	利用数	漁獲	養殖	H22	31	30	30	0.9	54.2	カキ、ホヤ、ワカメ	H25	18	140	140	0.1	8.0	カキ、ワカメ	R4	10	24	24	1.6	159.3	カキ、ホヤ、ワカメ
年度	経営 体数	漁船		水産物水揚げ(t)		主な水産物																																
		登録数	利用数	漁獲	養殖																																	
H22	31	30	30	0.9	54.2	カキ、ホヤ、ワカメ																																
H25	18	140	140	0.1	8.0	カキ、ワカメ																																
R4	10	24	24	1.6	159.3	カキ、ホヤ、ワカメ																																
<p>事業の実績に関する評価</p> <p>① 事業結果の活用状況に関する調査・分析・評価</p> <p>漁業施設用地について物揚場等周辺施設と同等に約 0.8m 程度嵩上げ整備したことから、漁具置き場や漁網の天日干し、養殖げたの清掃作業など、カキ・ホヤ、ワカメ養殖等の漁業活動で漁協組合に加入する約 20 名の漁業者に有効に活用されている。以上のことにより、事業が適正な執行がなされていると判断される。</p> <p>② コストに関する調査・分析・評価</p> <p>事業費の設計・積算は宮城県土木工事標準積算基準等により実施し、南三陸町財</p>																																						

務規則等に基づき入札を行い業者を選定している。

なお、工事の発注にあたってはC-5事業と合冊発注することで経費削減に努めた。また、同様の事業を行った気仙沼市の漁港施設機能強化事業の事業費(138,868千円/4件)と比較すると、気仙沼市 6,576 円/㎡に対し南三陸町 3,776 円/㎡となっており、発注条件の違いもあり単純に比較はできないが、妥当なものとする。

	南三陸町	気仙沼市
事業箇所	藤浜地区(第1種漁港)	市内漁港4地区(第1種漁港)
事業内容	漁港施設用地嵩上げ (H=0.8m,A=1,164㎡)	漁港施設用地嵩上げ (H=1m,A=21,117㎡)
事業費	4,395千円	138,868千円

③ 事業手法に関する調査・分析・評価

関連する災害復旧事業及び漁業従事者との調整により、本工事着手前に農山交(海岸保全施設整備事業)工事で藤浜防潮堤(重力式擁壁)を先行して整備しなければならなかったことにより事業期間を延伸することになったが、漁業関係者と合意形成を図り、漁業活動に支障を来すことなく復興期間内に事業を完了させることができたことは評価される。

<想定した事業期間>

工事発注・完了 平成24年5月～平成29年3月

<実際に事業に要した事業期間>

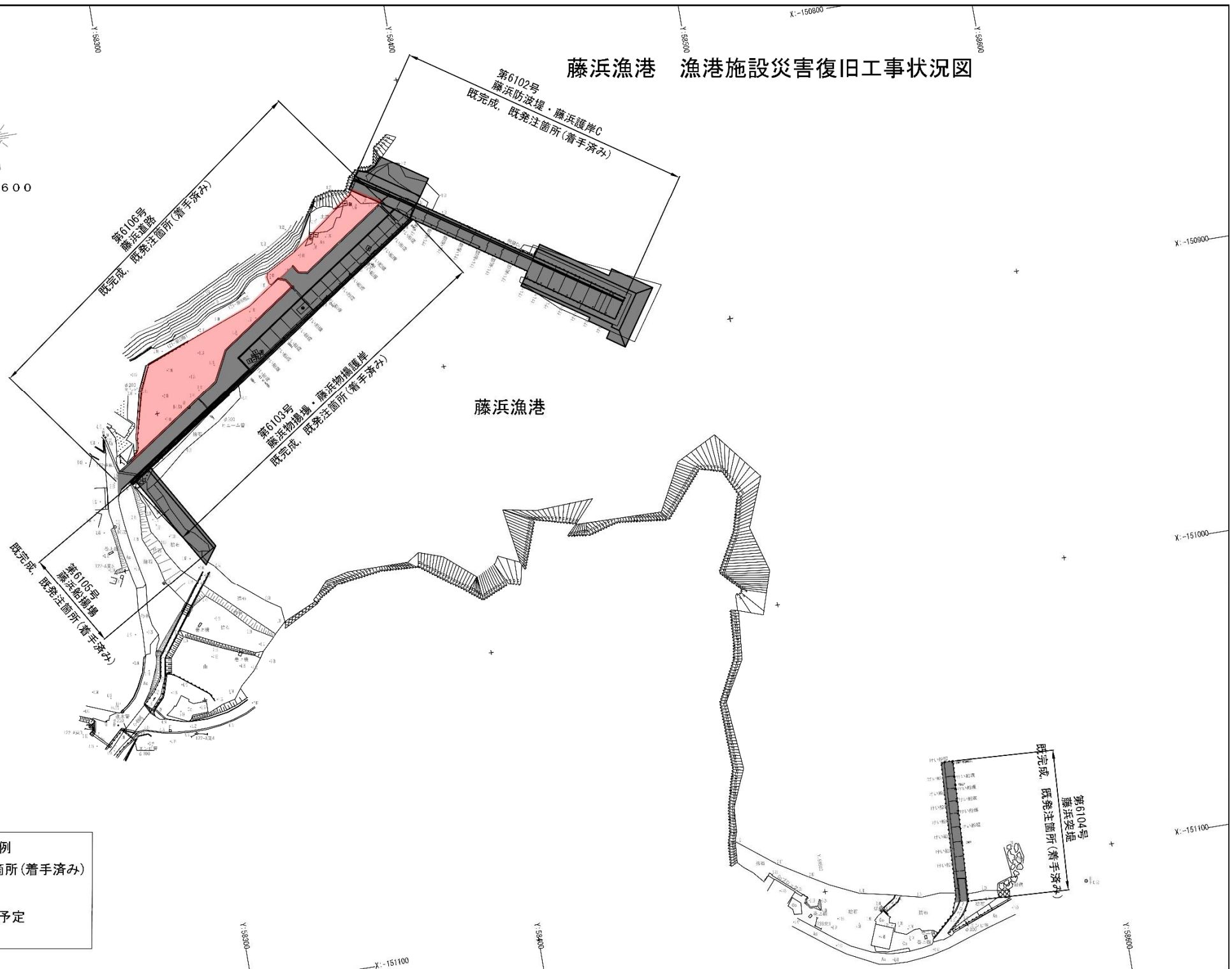
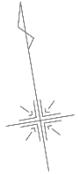
工事発注・完了 平成24年11月～令和3年3月

事業担当部局

建設課漁港係 電話番号：0226-46-1377

藤浜漁港 漁港施設災害復旧工事状況図

S = 1 : 600



凡 例

- 既完成, 既発注箇所(着手済み)
- H28年度着手予定
- H29年度着手予定
- H30年度以降着手予定
- 廃工予定

【復興交付金事業計画の個別事業の実績に関する評価様式】

事業番号 C-6-11						
事業名 漁港施設機能強化事業 (⑩石浜漁港)						
事業費 総額 16,119 千円 (国費：12,088 千円)						
内訳：工事費 16,119 千円						
事業期間 平成 24 年度～平成 27 年度						
事業目的						
被災した漁港において、災害復旧事業による漁港施設（防波堤、護岸、突堤、物揚場、船揚場、道路）の復旧と連携して、地盤沈下した漁業用施設用地（共同利用施設）の嵩上げ等を行い、漁港機能の速やかな回復を図る。						
【整備概要】						
○漁業用施設用地の嵩上げ 1m 程度 面積 2,361 m ²						
事業地区 石浜漁港（別紙図面参照）						
事業結果						
災害復旧事業と連携し、下記のとおり機能強化を図った。						
・ 漁業用施設用地嵩上げ A=1,810 m ²						
・ コンクリート舗装 A=880 m ²						
<平成 24 年度～平成 25 年度>						
・ 工事費 16,119 千円						
○漁港の概要（港勢調査）						
年度	経営 体数	漁船		水産物水揚げ(t)		主な水産物
		登録数	利用数	漁獲	養殖	
H22	20	90	90	176.1	938.9	サケ、サンマ、ワカメ
H25	20	43	43	0.0	27.0	ワカメ
R4	29	68	68	4.8	441.3	ワカメ
0						
事業の実績に関する評価						
① 事業結果の活用状況に関する調査・分析・評価						
漁業施設用地について物揚場等周辺施設と同等に約 0.8m 程度嵩上げ整備したことから、漁具置き場や漁網の天日干し、養殖げたの清掃作業など、ワカメ養殖等の漁業活動で漁協組合に加入する約 50 名の漁業者に有効に活用されている。以上のことにより、事業が適正な執行がなされていると判断される。						
② コストに関する調査・分析・評価						
事業費の設計・積算は宮城県土木工事標準積算基準等により実施し、南三陸町財務規則等に基づき入札を行い業者を選定している。						

漁港施設災害復旧工事や近隣地区と合冊発注することで経費削減に努めた。

また、同様の事業を行った気仙沼市の漁港施設機能強化事業の事業費(138,868千円/4件)と比較すると、気仙沼市 6,576 円/㎡に対し南三陸町 89,055 円/㎡であった。事業費の差異については、コンクリート舗装を整備したことによるものと判断される。

	南三陸町	気仙沼市
事業箇所	石浜地区(第1種漁港)	市内漁港4地区(第1種漁港)
事業内容	漁港施設用地嵩上げ (H=0.8m,A=1,810 m ²)	漁港施設用地嵩上げ (H=1m,A=21,117 m ²)
事業費	16,119 千円	138,868 千円

③ 事業手法に関する調査・分析・評価

関連する災害復旧事業及び漁業従事者との調整に時間を要し、工事発注時期が遅れたが、その後の工程管理により事業期間を短縮し早期に完了することができたことから、事業手法は適切と考える。

<想定した事業期間>

工事発注・完了 平成24年5月～平成28年3月

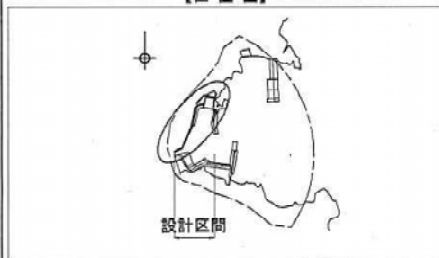
<実際に事業に要した事業期間>

工事発注・完了 平成25年1月～平成26年3月

事業担当部局

建設課漁港係 電話番号：0226-46-1377

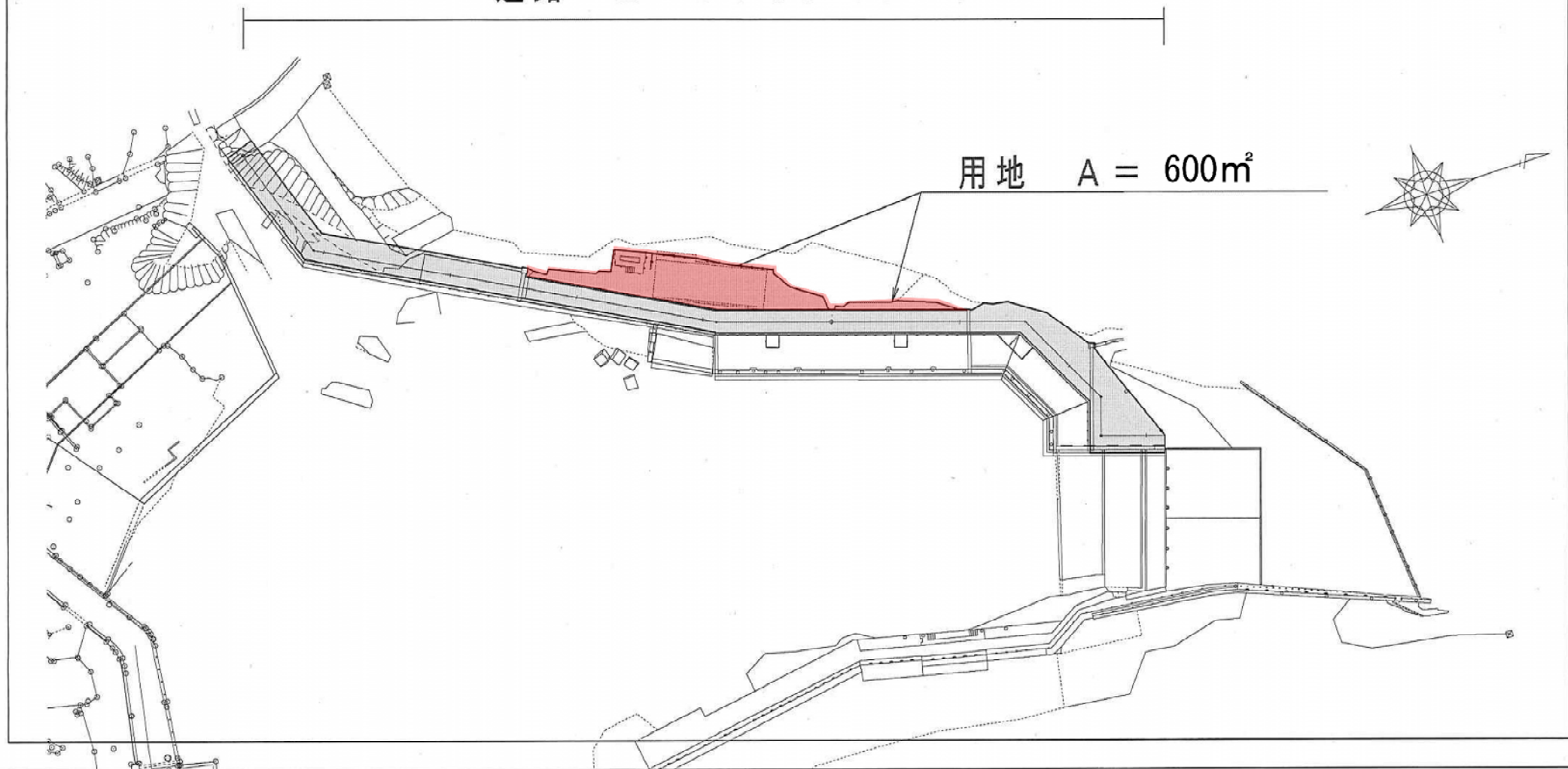
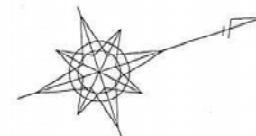
【位置図】



石浜漁港
石浜道路・用地 平面図

道路 $L = 163.0\text{ m}$

用地 $A = 600\text{ m}^2$



【復興交付金事業計画の個別事業の実績に関する評価様式】

事業番号 C-6-12

事業名 漁港施設機能強化事業 (⑫稲淵漁港)

事業費 総額 9,482 千円 (国費：7,111 千円)

内訳：工事費 9,482 千円

事業期間 平成 24 年度～平成 25 年度

事業目的

被災した漁港において、災害復旧事業による漁港施設（防波堤、新設防波堤、物揚場、道路）の復旧と連携して、地盤沈下した漁業作業用用地の嵩上げ、舗装、排水等を行い、漁港機能の速やかな回復を図る。

【整備概要】

○漁業用施設用地の嵩上げ 1m 程度 A=2,920 m²

事業地区 稲淵漁港（別紙図面参照）

事業結果

災害復旧事業と連携し、下記のとおり機能強化を図った。

- ・用地嵩上工事 A=540 m²
- ・舗装工 A=540 m²
- ・排水工 L=52m

<平成 24 年度～平成 25 年度>

- ・工事費 9,482 千円

○漁港の概要（港勢調査）

年度	経営 体数	漁船		水産物物揚げ(t)		主な水産物
		登録数	利用数	漁獲	養殖	
H22	48	55	55	234.9	701.3	サケ、カキ、ホタテ、ワカメ
H25	48	23	23	0.0	244.0	ワカメ
R4	20	46	46	2.7	375.2	ワカメ

事業の実績に関する評価

① 事業結果の活用状況に関する調査・分析・評価

漁業用施設用地について物揚場等周辺施設と同等になるよう約 0.4m 程度嵩上げ整備したことから、漁具置場や漁網の天日干し、養殖げたの清掃作業など、漁協組合に加入する約 40 名の漁業者に有効に活用されている。以上のことより、事業が適正な執行がなされていると判断される。

② コストに関する調査・分析・評価

事業費の設計、積算は宮城県土木工事標準積算基準等により実施し、南三陸町財

務規則等に基づき入札により業者を選定している。

同事業及び災害復旧事業（館浜地区・寄木地区）と合冊発注することで、経費削減を図っている。

また、同様の事業を行った気仙沼市の漁港施設機能強化事業の事業費(138,868千円/4件)と比較すると、気仙沼市 6,576 円/㎡に対し南三陸町 17,561 円/㎡であるが、Con 舗装と排水整備を除いた嵩上げ費用のみで比較すれば妥当なものと考えられる。(南三陸嵩上げ工事のみ 3,200 円/㎡)

	南三陸町	気仙沼市
事業箇所	稲淵地区（第1種漁港）	市内漁港4地区(第1種漁港)
事業内容	漁業用施設用地嵩上げ (H=0.4m,A=540㎡)	漁港施設用地嵩上げ (H=1m,A=21,117㎡)
事業費	9,483千円	138,868千円

③ 事業手法に関する調査・分析・評価

関連する災害復旧事業及び漁業従事者との調整に時間を要し、工事発注時期が遅れたが、漁業者の理解を得て、漁業生産活動に支障を来すことなく事業を完了することができたことから、事業手法は適切と考える。

<想定した事業期間>

工事発注・完了 平成24年5月～平成25年1月

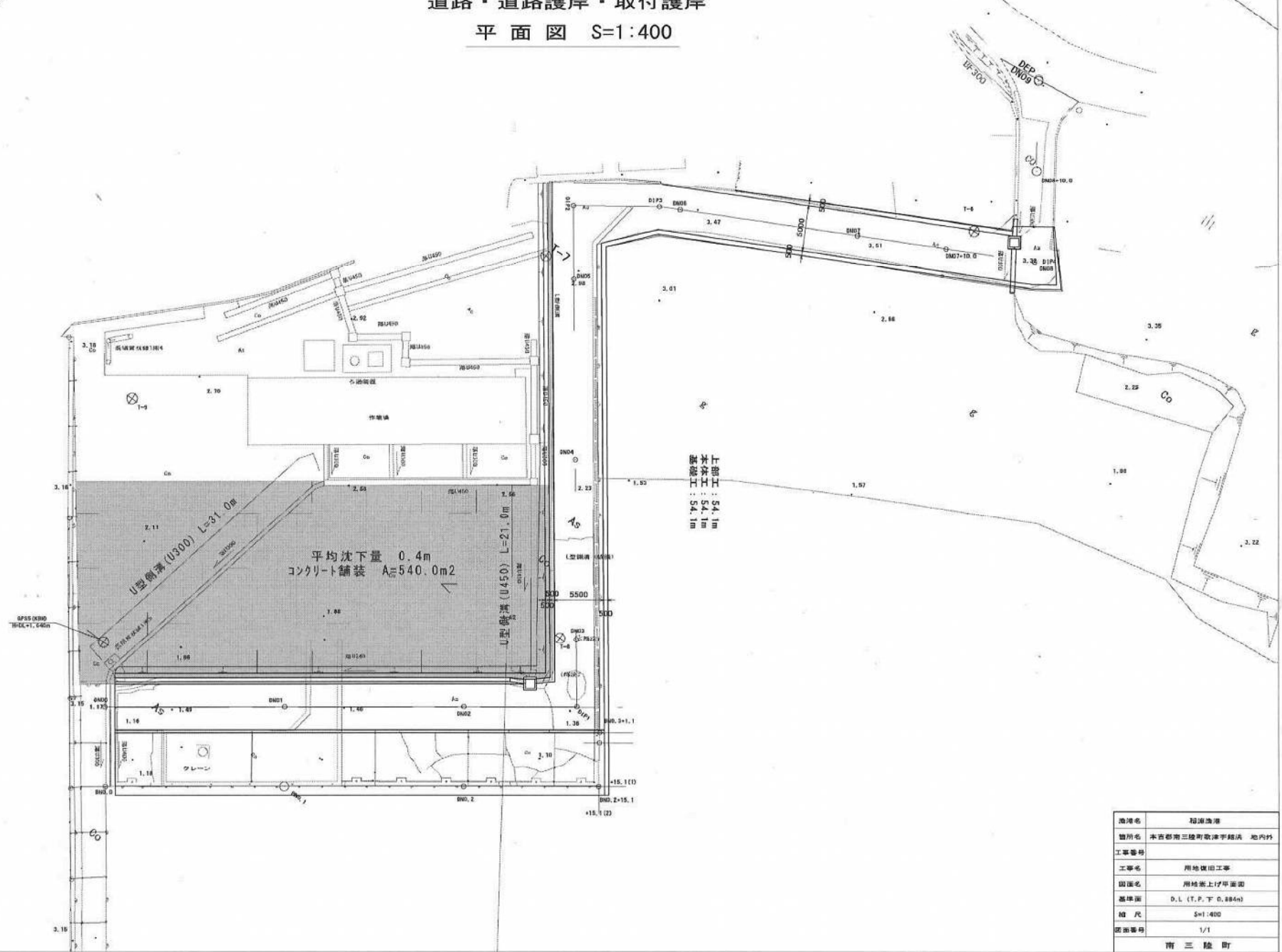
<実際に事業に要した事業期間>

工事発注・完了 平成25年1月～平成26年3月

事業担当部局

建設課漁港係 電話番号：0226-46-1377

23年災第6043号 稲淵漁港
 道路・道路護岸・取付護岸
 平面図 S=1:400



漁港名	稲淵漁港
箇所名	本吉郡第三検町取津字稲決 地内外
工事番号	
工事名	用地復旧工事
図面名	用地嵩上げ平面図
基準面	D.L. (T.P. 下 0.884m)
縮尺	S=1:400
図面番号	1/1
南三陸町	

【復興交付金事業計画の個別事業の実績に関する評価様式】

事業番号 C-6-13						
事業名 漁港施設機能強化事業 (⑬館浜漁港)						
事業費 総額 19,193 千円 (国費：14,393 千円) 内訳：工事費 19,193 千円						
事業期間 平成 24 年度～平成 29 年度						
事業目的 被災した漁港において、災害復旧事業による漁港施設（防波堤、護岸、物揚場、船揚場、道路）の復旧と連携して、地盤沈下した漁業作業用地の嵩上げ、舗装等を行い、漁港機能の速やかな回復を図る。 【整備概要】 ○漁業用施設用地の嵩上げ 1m 程度 面積 1,293 m ²						
事業地区 館浜漁港（別紙図面参照）						
事業結果 災害復旧事業と連携し、下記のとおり機能強化を図った。 ・漁業用施設用地嵩上げ A=2,378 m ² ・コンクリート舗装 A=1,022 m ² ・アスファルト舗装 A=1,350 m ² <平成 24 年度～平成 29 年度> ・工事費 19,193 千円 ○漁港の概要（港勢調査）						
年度	経営 体数	漁船		水産物水揚げ(t)		主な水産物
		登録数	利用数	漁獲	養殖	
H22	36	53	53	210.1	280.7	サケ、カキ、コンブ、ワカメ
H25	36	19	19	0.0	80.0	ワカメ
R4	18	49	49	2.1	197.7	カキ、ホヤ、ワカメ
0						
事業の実績に関する評価						
① 事業結果の活用状況に関する調査・分析・評価 漁業施設用地について物揚場等周辺施設と同等に約 0.3m 程度嵩上げ整備したことから、漁具置き場や漁網の天日干し、養殖げたの清掃作業など、カキ・ホヤ・ワカメ養殖等の漁業活動で漁協組合に加入する約 40 名の漁業者に有効に活用されている。以上のことにより、事業が適正な執行がなされていると判断される。						
② コストに関する調査・分析・評価 事業費の設計・積算は宮城県土木工事標準積算基準等により実施し、南三陸町財						

務規則等に基づき入札により業者を選定している。

漁港施設災害復旧工事や近隣地区と合冊発注することで経費削減に努めた。

また、同様の事業を行った気仙沼市の漁港施設機能強化事業の事業費(138,868千円/4件)と比較すると、気仙沼市 6,576 円/m²に対し南三陸町 8,071 円/m²であった。事業費の差異については、H=0.3mの嵩上げ整備、コンクリート舗装及びアスファルト舗装を整備したことによるものであると判断される。

	南三陸町	気仙沼市
事業箇所	館浜地区(第1種漁港)	市内漁港4地区(第1種漁港)
事業内容	漁港施設用地嵩上げ (H=0.3m,A=2,378 m ²)	漁港施設用地嵩上げ (H=1m,A=21,117 m ²)
事業費	19,193 千円	138,868 千円

③ 事業手法に関する調査・分析・評価

関連する災害復旧事業との調整により工事着手に半年程の遅れが生じたが、漁業関係者の理解が得られ、漁業活動に支障を来すことなく事業を完了することができたことから、適切なものと判断される。

<想定した事業期間>

工事発注・完了 平成 24 年 5 月～平成 29 年 3 月

<実際に事業に要した事業期間>

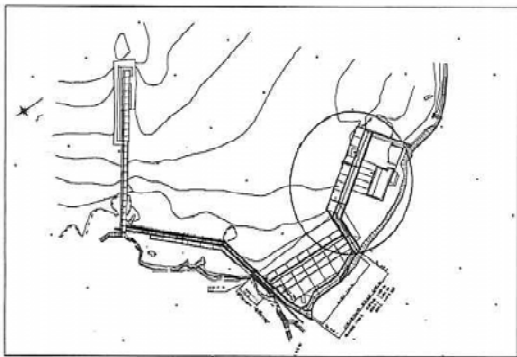
工事発注・完了 平成 25 年 1 月～平成 29 年 9 月

事業担当部局

建設課漁港係 電話番号： 0226-46-1377

館浜漁港

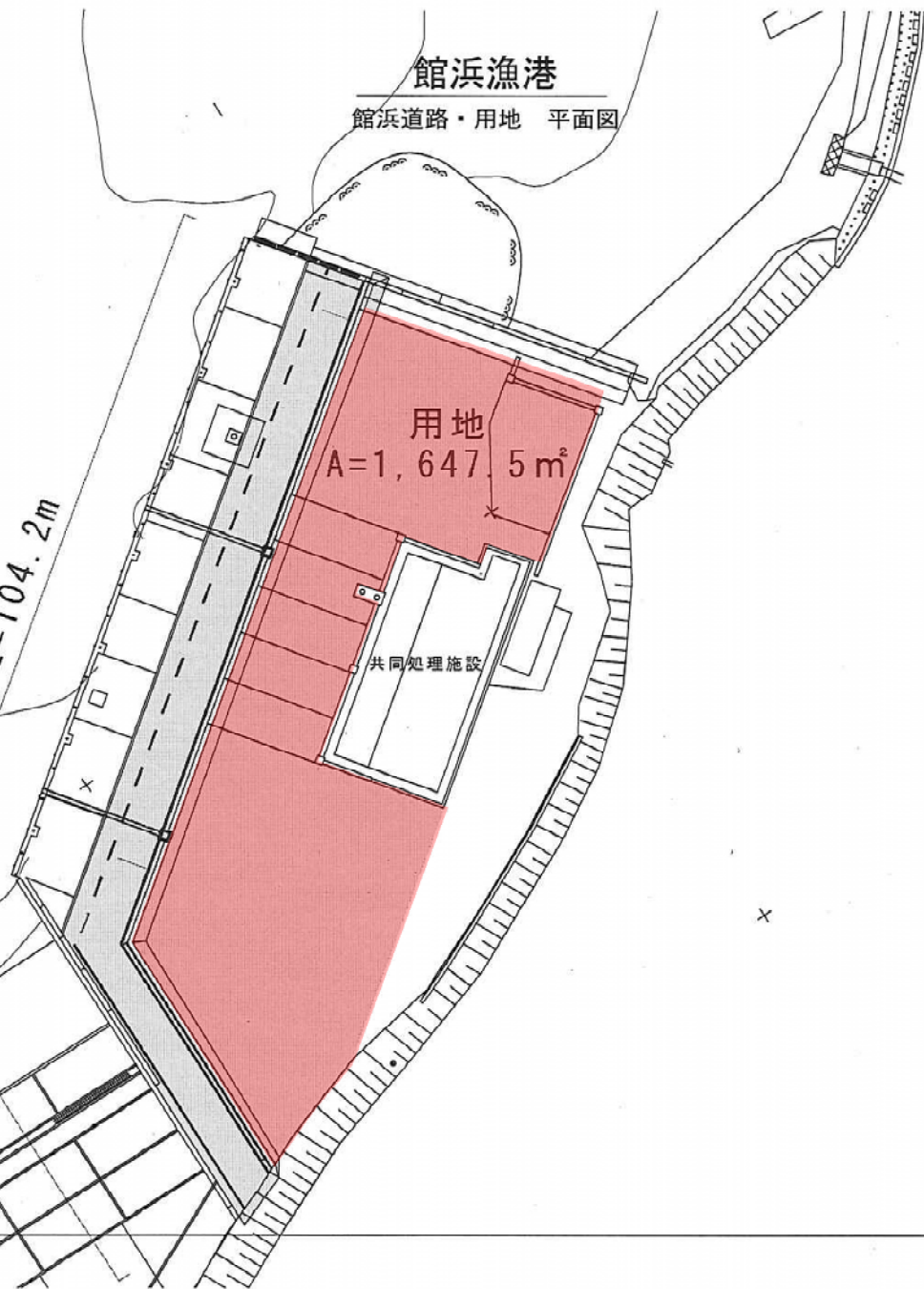
館浜道路・用地 平面図



道路 L=104.2m

用地
A=1,647.5m²

共同処理施設



【復興交付金事業計画の個別事業の実績に関する評価様式】

事業番号 C-7-1
事業名 水産加工場等施設整備事業
事業費 総額 6,218,382 千円 (国費 : 4,249,901 千円) (内訳 : 補助金 5,408,966 千円) 附帯事業費 14,820 千円 (国費 : 11,115 千円) (内訳 : 事務費 14,820 千円)
事業期間 平成 24 年度～平成 29 年度
事業目的 東日本大震災により甚大な被害を受けた水産業において、事業者が実施する水産加工流通施設等の整備について支援することにより、地域水産業の早期復興を図る。
事業地区 歌津地区、志津川地区、戸倉地区 (水産加工業者位置図添付)
事業結果 事業者が行う水産物鮮度保持施設 (冷凍施設、冷蔵施設)、水産物加工処理施設、水産廃棄物等処理施設、地魚直販施設、本体施設の付帯施設の整備に対し補助対象事業費の 8 分の 7 以内の補助金を町から交付し、水産業の復興を図った。 なお、採択を受けた事業者については公募時の下記要件を達成するため、地元水産物の消費拡大やブランド化に取り組んでいるほか、地域雇用に貢献している。 【水産加工場等施設整備事業公募時の要件】 1) 「南三陸町震災復興計画」及び関連施策に基づく水産加工流通施設を南三陸町内に整備予定であること。整備される新たな施設は、地域の水産物を生かした商品開発・製造・流通に資するとともに地域雇用の増大を図るものであること。 2) 事業開始から 5 年後までに、加工・販売する商品の原材料となる水産物について、宮城県内を中心に、東日本大震災の被災地等から仕入れ金額の 50%以上を安定的に調達すること。また、南三陸町内の水産物についても仕入れ金額 10%以上を安定的に調達する努力を行うこと。(水産物加工処理施設を整備する場合。) 3) 公募団体において、事業費分の適正な資金調達及び償還計画が策定されており、かつ、これらの計画が確実に実行されると見込まれること。 4) 整備予定の施設能力及び規模が地域の生産高と照らし適正であること。 5) 整備予定の施設の費用便益分析 (B/C) が 1 以上であること。 6) 整備予定の施設は、HACCP 対応の施設であること。(水産物加工処理施設を整備する場合) 7) 南三陸町が推進する海・山の環境認証制度の取得に協力する意思があること。 8) 南三陸町民の雇用を積極的に促進すること。 (施設整備後 2 年以内に、南三陸町民を 5 人以上 (水産廃棄物等処理施設のみを整備する場合にあっては 3 人以上) 新規に常時雇用すること。)

※上記応募要項に沿って事業計画審査会を開催し、事業実施業者を選定した。

〈平成 24 年度～平成 27 年度〉

・市町村事務費 14,819,549 円

〈平成 25 年度～平成 29 年度〉

・南三陸町水産業共同利用施設復興整備事業費補助金

総事業費 6,218,382,200 円（補助金額 5,408,966,000 円）

公募	事業者数	事業費 (補助額)	整備施設
第 1 回	2 社	1,119,355,800 (953,739,000)	水産加工(2)
第 2 回	1 社	525,650,000 (459,943,000)	水産加工(1)
第 3 回	5 社	2,086,645,000 (1,825,812,000)	水産加工(3)、地魚直販(1) 水産廃棄物処理(1)
第 4 回	4 社	2,486,731,400 (2,169,472,000)	水産加工(4)、地魚直販(1)
計	12 社	6,218,382,200 (5,408,966,000)	

① 事業結果の活用状況に関する調査・分析・評価

復興計画に掲げる『自然・ひと・なりわいが紡ぐ安らぎと賑わいのあるまち』への創造的復興を達成するために、町の理念に沿った活動を積極的に行う水産加工流通業者からの公募したことにより、将来的にも選ばれる地域ブランドの創造を目指し、いたずらに水揚げ数量の増大のみを目指すのではなく、持続可能な漁場環境の保全と、生産から流通までの一貫した衛生管理・鮮度管理体制を地域で確立する事業者が採択されており、採択要件の達成状況についても、いずれの事業者も達成しており適正と判断される。

② コストに関する調査・分析・評価

事業者選定にあたっては「南三陸町水産加工工場等施設整備事業審査会」を設置し、事前に事業者のプレゼンを確認するとともに、ヒアリングを行い、財務・経営体力についても聞き取り調査を行った。審査会では 6 人の審査員が事業の実現可能性や事業費の精査など、公募要件に照らして選定を行っており、適正と判断される。

一方で震災後の復興需要による建設資材等の高騰により、事業計画書提出時から実際の施工までの間に建設コストが増加したため、計画変更を余儀なくされるケースが多くみられた。

③ 事業手法に関する調査・分析・評価

事業者の公募は、前期（平成 24・25 年度）と後期（平成 26・27 年度）に分けて実施し、市街地における産業・施設誘致エリアの復興事業の進捗に合わせた事業

手法となっていることから、適切であると判断される。

〈想定した事業期間〉

補助金交付 平成 24 年度～平成 29 年度

〈実際に事業に要した事業期間〉

補助金交付 平成 24 年度～平成 29 年度

事業担当部局

農林水産課 水産業振興係 電話番号：0226-46-1378

【位置図】



【現況写真】

<(株)カネキ吉田商店>



<(株)ケーエスフーズ>



<(株)渡辺海苔店>



<(株)及新>



<(株)ヤマウチ>



<(株)遠藤組>



<(株)マルヤ五洋水産>



<(有)橋本水産食品>



<(株)行場商店>



<(株)マルセン食品>



<伊藤(株)>



<(株)及川商店>



【復興交付金事業計画の個別事業の実績に関する評価様式】

事業番号 ◆C-7-1-1
事業名 持続可能な海・山づくり事業
事業費 総額 1,995 千円（復興交付金額 1,596 千円） 内訳 研修等業務委託：1,995 千円
事業期間 平成 24 年度
事業目的・事業地区 FSC・ASC・フォレストック等の環境認証制度の普及・啓発を図り、町が行う環境認証取得等のために必要な事務的支援を行うことにより、持続可能な地域づくりに寄与することを目的とする。
事業結果 以下の、制度普及・啓発研修会を開催することによって、認証取得へとつながった。 ○環境認証制度の普及・啓発研修会の開催 森林認証制度（FSC・フォレストック）認証取得手続きに係る書類作成研修会 2 回開催 ○養殖認証制度の普及・啓発研修会の開催 養殖認証制度（ASC）認証取得手続きに係る書類作成研修会 1 回開催 ○海と山の地域ブランドづくり研修会開催 第 1 回「森林業の付加価値を高めるには」 1 月開催 第 2 回「水産業の付加価値を高めるには」 2 月開催 第 3 回「海と山の魅力あるコラボ商品づくりについて」 2 月開催 【参考】 平成 27 年 10 月 FSC 認証取得 平成 28 年 3 月 ASC 認証取得 <平成 24 年度> ・研修等業務委託費 1,995 千円
事業の実績に関する評価 ① 事業結果の活用状況に関する調査・分析・評価 日本で初めての取得となった ASC 認証（養殖漁業の国際認証）と FSC 認証（森の国際認証）の取得に大きく寄与し、この 2 つの認証を同時に取得している自治体は世界でも類を見ないものである。また、町内外へのインパクトも大きく、その後の町民の環境に対する意識の向上や、認証取得を通じた「ブランドづくり」「場づくり」「人づくり」へと繋がっていることから、事業内容は適切なものと考えられる。 ② コストに関する調査・分析・評価 業務の設計にあたっては国交省が示す積算基準等により積算を行い、南三陸町財務規則に基づき見積もりを徴し業者を決定している。なお、本業務は特定の事業

者に限られることから、指名業者審査委員会に付し業者の選定を実施した。以上のことから、費用に関しては適正なものとする。

③ 事業手法に関する調査・分析・評価

想定した事業期間どおりに事業が完了し、また、その後の認証取得に繋がっていることから、事業手法は適切なものとする。

〈想定した事業期間〉

委託業務 平成 24 年 10 月～平成 25 年 3 月

〈実際に事業に要した事業期間〉

委託業務 平成 24 年 10 月～平成 25 年 3 月

事業担当部局

農林水産課水産業振興係 電話番号：0226-46-1378